

岡崎市自然環境調査検討委員会のコメント

大平 仁夫

(岡崎市自然環境調査検討委員会会長) (昆虫類担当)

【岡崎の自然を見続けてきて】

50年以上岡崎の自然を見てきたが、環境は大きく変わり見られなくなった種も多い。レッドリストには我々の見てきた岡崎の自然の変化を反映している。今回改訂したレッドリストをアセスメントや学校教育などに活用することで岡崎の環境を守る一助としてほしい。

渡邊 幹男

(愛知教育大学教授) (植物類担当)

【遺伝子調査から分かってきた岡崎市の自然の実態】

植物では自生が疑問視されていたシラタマホシクサ・シロバイについて遺伝子調査を行ったところ自生であることが確認できたのでリストに反映した。遺伝子調査を用いてリストを評価したのは全国でも初の事例であると思う。自然を守るといっても本来の自然の実態が分からなければ守り方は見えてこない。レッドリストは岡崎の自然を知るための糸口になる。

矢部 隆

(愛知学泉大学教授) (爬虫類担当)

【環境へ与える影響・社会の動向に注意を】

爬虫類ではニホンイシガメを絶滅危惧Ⅱ類に指定した。ニホンイシガメはペット目的で全国的に乱獲され海外に輸出されているが、輸出されている個体の中で岡崎をはじめとした愛知県産のものが最も多かった(2015年に成体の野生個体は輸出禁止となったが、国内需要のため相変わらず愛知県でも乱獲が続いている)。またペットから野に放たれたミシシippアカミミガメが繁殖しニホンイシガメの生息環境が奪われつつある。こうした状況を危惧し今回のランクアップにつながった。自身の行動が環境に与える影響を考えること、また身近な自然に関心を持ち守ってほしい。